

ESMPRO/JMSS Ver7.2 ユーティリティ

ユーザーズマニュアル

は し が き

本書は、JMSS ユーティリティで提供しているコマンドについて説明しています。
本書の構成は次のとおりです。

章	タイトル	内 容
1	概要	JMSS ユーティリティの概要について
2	コマンドリファレンス	各コマンドのリファレンスについて
3	エラーコード一覧	コマンドで返却されるエラーコードについて

なお、セットアップ方法については、セットアップカードを参照してください。

2012年 9月 初版
2013年 3月 2版
2017年 5月 3版
2019年 3月 4版

備考

- (1) 本書はWindows Server® 2003、Windows Server® 2003 R2、Windows Server® 2008、Windows Server® 2008 R2、Windows Server® 2012、Windows Server® 2012 R2に対応しています。
- (2) Windows、Windows Serverは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
JMSSは、日本電気株式会社の登録商標です。
その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

はしがき.....	i
目次.....	ii

第 1 章 概要.....1

1.1 JMSS ユーティリティとは.....	1
1.2 提供コマンド群.....	1
1.3 導入効果.....	2
1.4 適用範囲.....	2
1.5 製品構成.....	2

第 2 章 コマンドリファレンス5

2.1 コマンド一覧.....	5
2.2 BAT 強化コマンド.....	7

①JECODE.....	7
②JGetDay.....	8
③JGetWeek.....	9
④JJCmd.....	10
⑤JShowDlg.....	11
⑥JShutd.....	13
⑦JSleep.....	14
⑧JVbCode.....	15
⑨JWaitT.....	16

2.3 サービス関連コマンド..... 17

①JChkSrv.....	17
②JCtlSrv.....	19

2.4 JMSS 環境関連コマンド..... 20

①JChgEnvL.....	20
②JChgEnvS.....	22

③JChgQue.....	23
④JChgSrv.....	24
⑤JChgStd.....	25
⑥JQueue	26
2.5 JMSS ジョブ情報関連コマンド	28
①JClrLog.....	28
②JGetStd	29
2.6 JMSS スケジュール関連コマンド	30
①JChgEvt	30
②JChgEvt2	31
③JChgSch	32
④JChgSch2	34
⑤JDispCal.....	36
⑥JDispEvt	37
⑦JDispSch	39
⑧JSwEvt.....	41
⑨JSwEvt2	42
2.7 JMSS メニュー関連コマンド	43
①JChgJmn	43
②JJmnEnv	45
③JConvSM.....	46
2.8 JMSS ジョブネット関連コマンド	47
①JChgJnt.....	47
②JConvCJ	49
2.9 JMSS セキュリティ関連コマンド	50
①JChgSec.....	50
第3章 エラーコード一覧	53

第 1 章 概要

1.1 JMSS ユーティリティとは

JMSS ユーティリティは、JMSSから利用できるコマンド群を提供しています。
スケジュール・カレンダーデータの自動配布や、キューの開閉・JMSSセキュリティ等の動的変更が可能となります。

1.2 提供コマンド群

■BAT強化コマンド

BATコマンドを機能強化するコマンドを提供します。

■サービス関連コマンド

サービス（JMSS以外のサービスを含む）の制御を行うコマンドを提供します。

■JMSS環境関連コマンド

JMSSの動作環境を制御/出力を行うコマンドを提供します。

■JMSSジョブ情報関連コマンド

JMSSのジョブ情報の制御/出力を行うコマンドを提供します。

■JMSSスケジュール関連コマンド

JMSSのスケジュール情報の制御/入出力を行うコマンドを提供します。

■JMSSメニュー関連コマンド

JMSSのメニューファイルおよびメニュー環境情報の制御を行うコマンドを提供します。

■JMSSジョブネット関連コマンド

JMSSのジョブネットファイルの制御を行うコマンドを提供します。

■JMSSセキュリティ関連コマンド

JMSSのセキュリティ情報の制御/出力を行うコマンドを提供します。

1.3 導入効果

- ・BAT強化コマンドが提供されることにより、BATファイル内で柔軟な処理が記述できます。
- ・BATファイルやCUI等からJMSSの各機能が利用できます。
- ・JMSSのスケジュール機能と連携すれば、JMSSの各環境（キューの開閉状態やJMSSセキュリティ等）を動的に変更できます。
- ・スケジュールデータの自動配布が可能になります。

1.4 適用範囲

JMSS ユーティリティは、「ESMPRO/JMSS Ver7.2」または「ESMPRO/JMSS Enterprise Edition Ver7.2」がインストールされているマシンでのみ動作します。

1.5 製品構成

JTOOLディレクトリ

JTool.txt

追加説明

DeIsLx.isu

インストールログファイル

<次ページへつづく>

JTOOL¥BINディレクトリ

JChgEnvL.exe	JLookサービス環境変更コマンド
JChgEnvS.exe	JScheduleサービス環境変更コマンド
JChgEvt.exe	イベント起動即時実行コマンド (ID指定)
JChgEvt2.exe	イベント起動即時実行コマンド (業務名指定)
JChgJmn.exe	JMenuデータ一括置換コマンド
JChgJnt.exe	ジョブネットファイル一括置換コマンド
JChgQue.exe	キュー&稼動マシン設定コマンド
JChgSch.exe	スケジューラー時変更コマンド (ID指定)
JChgSch2.exe	スケジューラー時変更コマンド (業務名指定)
JChgSec.exe	JMSSセキュリティ設定コマンド
JChgSrv.exe	JMSSサーバ名変更コマンド
JChgStd.exe	標準出力保存先ディレクトリ変更コマンド
JChkSrv.exe	サービス監視コマンド
JClrLog.exe	ログクリアコマンド
JConvCJ.exe	CSVジョブネット入力コマンド
JConvSM.exe	Sモデルメニューファイル変換コマンド
JCtlSrv.exe	サービス制御コマンド
JDispCal.exe	カレンダー表示コマンド
JDispEvt.exe	イベント起動データ表示コマンド
JDispSch.exe	スケジューラーデータ表示コマンド
JECode.exe	終了コード指定コマンド
JGetDay.exe	日付返却コマンド
JGetStd.exe	標準出力内容表示コマンド
JGetWeek.exe	週返却コマンド
JJCmd.exe	繰返し指定可能ジョブ投入コマンド
JJmnEnv.exe	JMenu環境設定コマンド
JMgcLib7.dll	JMSSユーティリティ共通ダイナミックリンクライブラリ
JQueue.exe	ジョブキュー情報表示/設定コマンド
JShowDlg.exe	任意メッセージ表示コマンド
JShutd.exe	Shutdownコマンド
JSleep.exe	スリープコマンド
JSwEvt.exe	イベント起動有効フラグ設定コマンド (ID指定)
JSwEvt2.exe	イベント起動有効フラグ設定コマンド (業務名指定)
JVbCode.bas	VB終了コード指定コマンド用VBモジュール
JVbCode.exe	VBAP終了コード指定コマンド
JWaitT.exe	指定時刻待ちコマンド

JTOOL¥SAMPLEディレクトリ

JChgEnvL.sam	JLookサービス環境変更コマンドサンプル
JChgEnvS.sam	JScheduleサービス環境変更コマンドサンプル
JChgEvt.sam	イベント起動即時実行コマンド（ID指定）サンプル
JChgEvt2.sam	イベント起動即時実行コマンド（業務名指定）サンプル
JChgJmn.sam	JMenuデーター括置換コマンドサンプル
JChgJnt.sam	ジョブネットファイル括置換コマンドサンプル
JChgQue.sam	キュー&稼動マシン設定コマンドサンプル
JChgSch.sam	スケジューラ一時変更コマンド（ID指定）サンプル
JChgSch2.sam	スケジューラ一時変更コマンド（業務名指定）サンプル
JChgSec.sam	JMSSセキュリティ設定コマンドサンプル
JChgSrv.sam	JMSSサーバ名変更コマンドサンプル
JChgStd.sam	標準出力保存先ディレクトリ変更コマンドサンプル
JChkSrv.sam	サービス監視コマンドサンプル
JClrLog.sam	ログクリアコマンドサンプル
JCtlSrv.sam	サービス制御コマンドサンプル
JDispCal.sam	カレンダー表示コマンドサンプル
JDispEvt.sam	イベント起動データ表示コマンドサンプル
JDispSch.sam	スケジューラデータ表示コマンドサンプル
JECode.sam	終了コード指定コマンドサンプル
JGetDay.sam	日付返却コマンドサンプル
JGetStd.sam	標準出力内容表示コマンドサンプル
JGetWeek.sam	週返却コマンドサンプル
JJCmd.sam	繰返し指定可能ジョブ投入コマンドサンプル
JJmnEnv.sam	JMenu環境設定コマンドサンプル
JQueue.sam	ジョブキュー情報表示／設定コマンドサンプル
JShowDlg.sam	任意メッセージ表示コマンドサンプル
JShutd.sam	Shutdownコマンドサンプル
JSleep.sam	スリープコマンドサンプル
JSwEvt.sam	イベント起動有効フラグ設定コマンド（ID指定）サンプル
JSwEvt2.sam	イベント起動有効フラグ設定コマンド（業務名指定）サンプル
JVbCode.sam	VBAP終了コード指定コマンドサンプル
JVbCodet.frm	VBAP終了コード指定コマンドサンプル（VB）
JWaitT.sam	指定時刻待ちコマンド

第2章 コマンドリファレンス

2.1 コマンド一覧

○BAT強化コマンド

JECode	指定の値で終了します。
JGetDay	終了値として今日の日付を返却します。
JGetWeek	終了値として今日の曜日を返却します。
JJCmd	JMSSへジョブを投入します。（繰り返し指定あり）
JShowDlg	任意のメッセージをダイアログに表示します。
JShutd	マシンのシャットダウンを行います。
JSleep	指定時間スリープします。
JVbCode	Visual Basicで作成したジョブから終了値を指定可能にします。
JWaitT	指定された時刻まで待ち合わせします。

○サービス関連コマンド

JChkSrv	サービス（JMSS関連サービスを含む）の状態を監視します。
JCtlSrv	サービス（JMSS関連サービスを含む）の実行を制御します。

○JMSS環境関連コマンド

JChgEnvL	JLookサービス関連の環境を表示/変更します。
JChgEnvS	JScheduleサービス関連の環境を表示/変更します。
JChgQue	ジョブキューおよび稼動マシンを登録/削除します。
JChgSrv	JMSS内に設定されているJMSSサーバ名を変更します。
JChgStd	標準出力保存先ディレクトリを変更し、現在保存されているファイルも移動します。
JQueue	ジョブキュー情報を表示/変更します。

○JMSSジョブ情報関連コマンド

JClrLog	JLookログのクリア、標準出力保存先ファイルを削除します。
JGetStd	ジョブの標準出力の内容を表示します。

○JMSSスケジュール関連コマンド

JChgEvt	IDで指定したイベント起動ジョブを即実行します。
JChgEvt2	業務名で指定したイベント起動ジョブを即時実行します。
JChgSch	IDで指定したスケジュールジョブを一時変更します。
JChgSch2	業務名で指定したスケジュールジョブを一時変更します。
JDispCal	カレンダーを表示します。
JDispEvt	イベント起動ジョブを表示します。
JDispSch	スケジュールジョブを表示します。
JSwEvt	IDで指定したイベント起動ジョブの有効/無効を設定します。
JswEvt2	業務名で指定したイベント起動ジョブの有効/無効を設定します。

○JMSSメニュー関連コマンド

JChgJmn	メニューファイル内の文字列を一括置換します。
JJmnEnv	JMenu環境を設定します。
JConvSM	SモデルメニューファイルをJMSSのメニューファイルに変換します。

○JMSSジョブネット関連コマンド

JChgJnt	ジョブネットファイル内の文字列を一括置換します。
JConvCJ	JMSS/JBuildからCSV形式で出力されたファイル(*.CSV)や、表計算ソフトなどで作成したCSV形式のファイルを、ジョブネットワークファイルに変換します。

○JMSSセキュリティ関連コマンド

JChgSec	JMSSのセキュリティを表示/設定します。
---------	-----------------------

2.2 BAT 強化コマンド

①JECode

JECode.exe は指定された値で終了します。

構文 JECode.exe 終了コード

パラメータ 終了コード

終了コードとする値を10進数または16進数で指定します。

最初に"0x"が指定された場合は16進数とみなし、それ以外の場合は10進数とみなします。

<値形式> 0xN | N

<値範囲> -2,147,483,648～2,147,483,647(10進数)
 00000000～FFFFFFFF(16進数)

終了コード 正常終了 パラメータ指定された値を返却します。
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： copyコマンドが正常に終了した場合は終了コードが"1"となり、異常終了した場合は終了コードが"10"(0 x A)となります。

JECode.bat

```
jcnd /o cmd.exe /c copy c.dat d.dat
```

```
IF NOT ERRORLEVEL 1 JECode.exe 10 & EXIT
```

```
JECode.exe 1
```


JGetDay

②JGetDay

JGetDay.exe は今日の日付を返却します。

構文 JGetDay.exe [*日付種別*]

パラメータ *日付種別*

日付種別として以下のいずれかを指定します。

省略時は日を返却します。

/d 日を返却します。

/m 月を返却します。

/y 年を返却します。

終了コード 正常終了 日付を返却します。

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： 本日が20日のときにのみ、処理Job.exeを実行します。

JGetDay.bat

JGetDay.exe

IF %ERRORLEVEL% EQU 20 GOTO 20day

GOTO end

:20day

Job.exe

:end

EXIT

③JGetWeek

JGetWeek.exe は曜日を数字で返却します。

構文 JGetWeek.exe

パラメータ なし

終了コード 正常終了 以下のいずれかの値を返却します。

- 0 日曜日です。
- 1 月曜日です。
- 2 火曜日です。
- 3 水曜日です。
- 4 木曜日です。
- 5 金曜日です。
- 6 土曜日です。

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： 本日が月曜日のときにのみ、処理Job.exeを実行します。

```
JGetWeek.bat
    JGetWeek.exe
    IF %ERRORLEVEL% EQU 1 GOTO monday
    GOTO end
:monday
    Job.exe
:end
EXIT
```


④JJCmd

JJCmd.exe は JMSS へジョブを投入します。

構文 JJCmd.exe [/n[owait]] [/q[ueue]: ジョブキュー名]
 [/p[riority]: 優先順位] [/w[ork]: 実行時ディレクトリ名]
 [/t[itle]: 業務名] [/o[utput]: ファイル名]
 [/a[ppend]: ファイル名] [/v[erbose]]
 [/x: 繰返し間隔, 終了方法 ,N]
 [/l[imit]: 最大実行時間] [/k[idou]: ジョブ起動方式]
 [/c[ode]: ファイル名]
 ジョブ名 [パラメータ]

パラメータ /x: 繰返し間隔, 終了方法 [, N]
 JMSS/JScheduleの繰返しジョブと同じ動作を行います。
 繰返しの終了方法として、回数か時刻を指定できます。
 繰返し間隔
 繰返し間隔を秒単位で指定します。
 <値形式> S(秒) <値範囲> 1 ~ 86,399
 終了方法
 繰返しの終了方法として以下のいずれかを指定します。
 回数
 回数を指定します。
 <値形式> N(回) <値範囲> 1 ~ 9,999
 時刻
 上限時刻を指定します。
 <値形式> HH:MM:SS (時:分:秒)
 N
 繰返しで実行されたジョブを監視しない場合に指定します。
 省略時は全て監視します。
 その他のパラメータについては、JMSS本体のオンラインヘルプや、ユーザズマニュアルの「JCMD」コマンドの説明を参照してください。

終了コード 正常終了 実行ジョブの終了コードを返却します。
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ JLook業務投入権、ジョブキューセキュリティ

例： Job.exeを1分毎に10回投入します。また、Job2.exeを10分毎に23：30まで投入します
 (周期ジョブを監視しません)。

JJCmd.bat
 JJCmd.exe /x:60, 10 Job.exe
 JJCmd.exe /x:600,23：30：00,N Job2.exe

⑤JShowDlg

JShowDlg.exe は任意のメッセージをダイアログで表示します。任意のメッセージには、テキストファイルの内容も指定できます。

構文 JShowDlg.exe [/d:ダイアログタイプ] [t:"タイトル"]
[o:タイムアウト時間] [a] [n] [f]
"メッセージ文字列" | "ファイル名"

パラメータ /d: ダイアログタイプ

以下のいずれかを指定します。

省略時はYESNOダイアログとなります。

yesno [はい] [いいえ] ボタンのダイアログ。

okcancel| [OK] [キャンセル] ボタンのダイアログ。

ok [OK] ボタンのみのダイアログ。

/t:"タイトル"

ダイアログのタイトル名を指定します。

省略時は規定のタイトル"JShowDlg"となります。

/0: タイムアウト時間

タイムアウトまでの時間を分単位で指定します。

省略時はタイムアウトしません。

<値形式> N(分) <値範囲> 1 ~ 59

/a

ダイアログを常に手前に表示します。

/n

右側のボタン（[いいえ] または [キャンセル] ボタン）をデフォルトにします。

省略時は左側のボタン（[はい] または [OK] ボタン）がデフォルトです。

/f

テキストファイル内容を表示する場合に指定します。

ファイルが存在しない場合またはオープンできない場合、エラーにはなりません。

"メッセージ文字列" | "ファイル名"

表示するメッセージを指定します。

fオプション時にはテキストファイル名とみなし、その内容を表示します。

終了コード 正常終了 以下のいずれかの値を返却します。

- 1 左側のボタン（[はい] または [OK] ボタン）が選択
されました。
- 2 右側のボタン（[いいえ] または [キャンセル] ボタン）
が選択されました。
- 3 タイムアウトしました。（/oオプション時）

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 ログオフ状態でJShowDlgを実行すると、バックグラウンドでコマンドが実行されますのでご注意ください。

例： A.txtファイルが存在しない場合ダイアログを表示し、[はい] が選択またはタイムアウトの時再度ファイルを検索します。その後、A.txtファイルが存在した場合には、A.txtの内容をダイアログに表示します。

```
JShowDlg.bat
:loop
IF EXIST A.txt GOTO showtxt
JShowDlg.exe /t:"確認！" /o:1 "A.txtが存在しません。 再検索しますか？"
SET DlgRtn=%ERRORLEVEL%
IF "%DlgRtn%"=="1" GOTO loop
IF "%DlgRtn%"=="3" GOTO loop
EXIT
: showtxt
JShowDlg.exe /d:ok /a /f "A.txt"
EXIT
```


⑥JShutd

JShutd.exe は指定したマシンのシャットダウン、再起動、およびシャットダウンの取消しを行います。

このコマンドは、Shutdown 権限を持つユーザで実行してください。

構文 JShutd.exe [/force] [/w:待ち秒数] 種別 マシン名 ["メッセージ"]

パラメータ /force

強制シャットダウンを行います。

/w: 待ち秒数

シャットダウンが開始されるまでの値を秒単位で指定します。

省略時は20秒待ちます。

シャットダウンを待っている間は指定先のマシンにダイアログが表示されます。

<値形式> N(秒)

種別

シャットダウン種別として以下のいずれかを指定します。

s 通常シャットダウンを行います。

r シャットダウン後再起動を行います。

c シャットダウン待ちの場合に、シャットダウンの取消しを行います。

マシン名

対象とするマシン名を指定します。

サーバOS以外のマシンは無効です。

"メッセージ"

シャットダウン待ちの間に表示されるダイアログにメッセージを表示する場合に指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： copyコマンドが正常に終了した場合、Machine1というマシンの強制シャットダウンが開始されます。

JShutd. bat

jcnd /o cmd.exe /c copy c.dat d.dat

IF NOT ERRORLEVEL 1 EXIT

JShutd.exe /force /w:20 s ¥¥Machine1

JSleep

⑦JSleep

JSleep.exe は指定時間、スリープします。

構文 JSleep.exe *スリープ秒数*

パラメータ *スリープ秒数*

スリープする時間を秒単位(0以上)で指定します。

<値形式> N(秒)

<値範囲> 0～4,294,967

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： エラーが発生するまで10秒間隔でジョブの投入を行います。

```
JSleep.bat
:loop
jcmd /o cmd /c dir
IF NOT ERRORLEVEL 1 EXIT
JSleep.exe 10
GOTO loop
```


⑧JVbCode

JVbCode.exe は Visual Basic 等より出力されたテキストファイルの内容を終了コードと判別して終了します。

構文 JVbCode.exe [/u] "ファイル名"

パラメータ /u

ファイルを削除しない場合に指定します。
省略時は削除します。

"ファイル名"

終了コードを保存したテキストファイル名を指定します。
終了コードは、ファイルの 1 行目に -2147483648 ~ 2147483647 の 10 進数で指定してください。

終了コード 正常終了 テキストファイルで指定された終了コード
異常終了 「第 3 章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 Visual Basicからファイルを出力する場合は、"JVbCode.bas"をプロジェクトに追加し、関数JVbCodeを呼び出してください。

Public Function JVbCode (*caFileName* As String, *dwExitCode* As Long) As long

caFileName : 終了コード保存先ファイル名

dwExitCode : 終了コード

関数値 : True 正常

True 以外 エラー

62 指定したファイルが作成できません

63 出力に失敗しました(例: 空き容量がありません)

例 : Visual Basicで作成したvbtest.exeの終了コードが0の場合は正常とみなしてcopyコマンドを実行します。1以上の場合は異常とみなしてcopyコマンドを実行せず終了します。

JVbCode. bat

```
jcmd vbtest.exe vbcode.tmp
JVbCode.exe vbcode.tmp
IF ERRORLEVEL 1 GOTO error
jcmd cmd /c copy a.dat b.dat
:error
```

- JVbCode.batが強制終了された場合、vbcode.tmpが残る場合があります。
- vbtest.exeとJVbcode.exeが別のマシンで実行される場合は、vbcode.tmpはUNC名(¥¥マシン名¥共有名¥ファイル名)で指定してください。
- JVbCode.batが複数同時に実行された場合、vbcode.tmpに同時に出力される可能性があるため、正常に動作しない場合があります。

⑨JWaitT

JWaitT.exe は指定された時刻まで待ち合わせを行います。

構文 JWaitT.exe [/t:経過判別時間] [/l:タイムアウト時間] 待ち時刻

パラメータ /t:経過判別時間

既に経過していると判別する時間を分単位で指定します。
現在時間と待ち時刻の差が経過判別時間以内の場合、過ぎていたとみなして終了コード71で終了します。
省略時は起動時に指定時刻が過ぎていても、次の指定時刻になるまで待ちます。

<値形式> N(分)

<値範囲> 1～1,439

/l:タイムアウト時間

タイムアウト時間を分単位で指定します。
省略時はタイムアウトしません。

<値形式> N(分)

<値範囲> 1～1,439

待ち時刻

待ち合わせる時刻を指定します。

<値形式> HH:MM(時:分)

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： Job1.exe投入後、正常終了なら10:00まで待ってJob2.exeを投入します。

JWaitT.bat

jcmt /o Job1.exe a.dat b.dat

IF NOT ERRORLEVEL 1 EXIT

JWaitT.exe 10:00

jcmt /o Job2.exe c.dat d.dat

2.3 サービス関連コマンド

①JChkSrv

JChkSrv.exe はサービス（JMSS 関連サービスを含む）の状態を監視します。

構文 JChkSrv.exe [/m: マシン名] [/t: 監視間隔] [/s] [監視種別]
 "サービス表示名" | サービス名

パラメータ /m: マシン名

監視するサービスがあるマシン名を指定します。

省略時はローカルコンピュータのサービスを監視します。

/t: 監視間隔

サービスの状態を監視する間隔を秒単位で指定します。

省略時や0を指定時はその時点でのステータスを取得しすぐに終了します。

<値形式> N(秒)

/s

指定されたサービス表示名をサービス名とみなします。

監視種別

監視種別として以下のいずれかを指定します。

start 開始を感知するまで待ちます。

stop 終了を感知するまで待ちます。

"サービス表示名" | サービス名

監視するサービスのサービス表示名またはサービス名(/sオプション時)を指定します。

終了コード

正常終了

以下のいずれかの値を返却します。

2 開始しています。

3 停止しています。

4 開始中です。(/t:0オプション時のみ)

5 停止中です。(/t:0オプション時のみ)

6 再開中です。(/t:0オプション時のみ)

7 一時停止中です。(/t:0オプション時のみ)

8 一時停止しています(/t:0オプション時のみ)

異常終了

「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 サービスのステータスは、コントロールパネル→サービスで表示されるステータスを取得しているものであり、ストール等の状態は感知できません。
マシンの接続やステータスの取得に失敗した場合、約2分間リトライを行います。
コマンド実行ユーザとして、サービスを制御可能なユーザ権限が必要です。
コマンドの利用範囲は同一ドメイン、もしくは信頼関係を結んだドメイン間で利用可能です。

例： Server1のESMPRO/JMSS JLook Serviceサービスが停止してからJob.exeを実行します(監視間隔1分)。

JChkSrv.bat

```
JChkSrv /m:Server1 /t:60 stop "ESMPRO/JMSS JLook Service"  
Job.exe  
exit
```

ローカルマシンのESMPRO/JMSS JLook Serviceサービスが実行中であった場合のみJob2.exeを実行します。それ以外のときは何もしないで終了します。

```
JChkSrv "ESMPRO/JMSS JLook Service"  
IF %ERRORLEVEL% EQU 2 GOTO running  
GOTO end  
:running  
Job2.exe  
:end  
EXIT
```


②Jct | Srv

JCtlSrv.exe は指定されたマシンのサービスの制御を行います。

構文 JCtrlSrv.exe [/m:マシン名] [/s] 制御要求種別
"サービス表示名" サービス名

パラメータ /m: マシン名

制御するサービスがあるマシン名を指定します。
省略時はローカルコンピュータのサービスを制御します。

/s

指定されたサービス表示名をサービス名とみなします。

制御要求種別

制御種別として以下のいずれかを指定します。

start	停止中のサービスを開始します。
-------	-----------------

stop 開始中のサービスを停止します。

pause 実行中のサービスを一時停止します。

continue 一時停止中のサービスを再開します。

status	サービスの状態を表示します。
---------------	----------------

"サービス表示名" | サービス名

制御するサービスのサービス表示名("net start"コマンドまたはコントロールパネルのサービスで表示される名前)を指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考	サービスが指定された制御要求種別の状態であった場合は、終了コードに0を返却します。
----	---

例： 8:00-17:00の間だけ、Service 1 サービスを起動します。

```
JCtlSrv. bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JCtlSrv.exe start Service1
JWaitT.exe 17:00
JCtlSrv.exe stop Service1
GOTO loop
```

注意 このコマンドをWindows Server 2008以降で実行するには、管理者権限が必要です。

2.4 JMSS 環境関連コマンド

① JChgEnvL

JChgEnvL.exe は JLook サービスの環境情報を表示/設定します。

構文 JChgEnvL.exe [/s: サーバ名] [環境情報名 設定値 [設定値...]]

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

環境情報名 設定値 [設定値...]

環境情報名と設定値を以下の形式で指定します。

省略時は以下の全環境情報を表示します。

※の項目は、JLookサービス再起動後に有効になります。

log 設定値

最大ログ件数を指定します。

<値形式> N0000(件) 1000単位で指定

<値範囲> 1000~10000

1000~50000(Enterprise Edition時)

wseml 設定値

WS-EMLジョブ監視有無フラグとして以下のいずれかを指定します。

Off 監視しない

On 監視する

perf 設定値

パフォーマンスデータ取得間隔を秒単位で指定します。

<値形式> N(秒)

<値範囲> 10 ~ 3600(0:監視しない)

logdir "ディレクトリ名"

ログファイル作成ディレクトリを指定します。

std dir "UNCパス名"

標準出力ファイル保存先パス名を指定します。

UNC名で指定してください。

jobjd 設定値

ジョブ起動方式として以下のいずれかを指定します。

- s** サービスアカウントで起動
(情報表示時には「S(サーバインスツールアカウント)」と表示されます。)
- u** ログオンユーザアカウントで起動
(情報表示時には「U(ユーザインストールアカウント)」と表示されます。)

※ **hjob 設定値 [設定値...]**

保留ジョブの取扱いについて以下を指定します。

- Allhold** 全て保留
- Allexec** 全てのジョブ起動
- Onlysch** スケジュールのみ起動
- Alldel** 全て削除

※ **chkwm 設定値**

稼動マシンチェック間隔時間を秒単位で指定します。

<値形式> N(秒)

<値範囲> 10 ~ 600 (0:チェックしない)

※ **hjobkeep 設定値**

保留ジョブ保存期間を日単位で指定します。

<値形式> N(日) <値範囲> 0 ~ 10

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 参照時 JMSS利用権
変更時 セキュリティ設定権

例： バッチファイルに指定された全JMSSサーバに対してログ件数を10000件に設定します。

```
JchgEnvL.bat
: Loop
IF "%1" == "" EXIT
JChgEnvL.exe /s:%1 log 10000
SHIFT
GOTO loop
```


②JChgEnvS

JChgEnvS.exe は JSchedule サービスの環境情報を表示/設定します。

構文 JChgEnvS.exe [/s: サーバ名] [環境情報名 設定値 [設定値...]]

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

環境情報名 設定値 [設定値...]

以下の形式で指定します。

省略時は以下の全環境情報を表示します。

expire 設定値

保存期間を日単位で指定します。

<値形式> N(日) <値範囲> 1 ~ 10

notify 設定値 [設定値...]

投入通知設定の値として以下を指定します。

複数指定が可能です。

s 成功通知を行います。

f 失敗通知を行います。

ntime 設定値 [設定値...]

積み残しジョブ通知タイミングの値として以下を指定します。複数指定が可能です。

start サービス起動時に通知します

指定時間 指定時間に通知します。

<値形式> HH:MM (時:分)

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 参照時 JMSS利用権

変更時 セキュリティ設定権

例： バッチファイルに指定された全JMSSサーバに対して投入成功通知/失敗通知を行うように設定します。

```
JChgEnvS.bat
:loop
IF "%1" == "" EXIT
JChgEnvS.exe /s:%1 notify s f
SHIFT
GOTO loop
```


③JChgQue

JChgQue.exe は、ジョブキューまたは稼働マシンの追加と削除を行います。

構文 JChgQue.exe [/s:サーバ名] [種別]
 /m:稼働マシン名
 /q:ジョブキュー名 [マシン名 [マシン名...]]

パラメータ /s:サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

種別

動作種別として以下のいずれかを指定します。

省略時は追加(/aオプション)となります。

/a 追加します。

/d 削除します。

/q:ジョブキュー名

ジョブキュー名を指定します。

マシン名 [マシン名...]

/qで指定したジョブキューに関連付ける稼働マシン名を指定します。

/m:稼働マシン名

稼働マシン名を指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 変更時 セキュリティ設定権

備考 ジョブキューの新規作成時は、状態「開」、ジョブキュー多重度／優先度、リトライ回数／間隔は既定値が登録されます。これらを変更するには、JQueueコマンドを利用してください。

稼働マシンの新規作成時、マシン多重度は既定値で登録されます。マシン多重度を変更するには、JQueueコマンドを利用してください。

ジョブキューの関連マシンは既に登録済みの稼働マシン名を指定してください。登録されていないマシン名を指定した場合、そのマシンは登録されませんが、コマンドは正常終了します。

ジョブキューの関連マシンが不正である等の理由で関連マシンが0台の場合には状態が「閉」で登録されます。

例： Que1というジョブキューを追加し、稼働マシンSrv1とSrv2を関連付けます。

JChgQue.bat

JChgQue.exe /a /m:Srv1

JChgQue.exe /a /m:Srv2

JChgQue.exe /a /q:Que1 Srv1 Srv2

④JChgSrv

JChgSrv.exe は JMSS 内に保存されている JMSS サーバ名情報を新しいサーバ名に変更します。

構文 JChgSrv.exe *旧マシン名* *新マシン名*

パラメータ *旧マシン名*
 変更前のJMSSサーバ名を指定します。
 新マシン名
 変更後のJMSSサーバ名を指定します。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ セキュリティ設定権

備考 OS でサーバ名の変更を行った後、このコマンドを使用してください。
 変更中は JLook サービスが停止されます。

例： JMSS サーバ名を JMSS 1 から JMSS2 に変更します。
 JChgSrv. bat
 JChgSrv.exe JMSS1 JMSS2

注意 このコマンドをWindows Server 2008以降で実行するには、管理者権限が必要です。

⑤JChgStd

JChgStd.exe は現在の標準出力保存先ディレクトリに保存されている標準出力保存ファイルを指定されたディレクトリに移動し、ログファイル内の標準出力保存ファイル情報も変更します。また JMSS 内に設定されている標準出力保存先ディレクトリ情報も指定されたディレクトリに変更します。

構文 JChgStd.exe "変更先ディレクトリ名"

パラメータ "変更先ディレクトリ名"

新しい標準出力保存先ディレクトリ名をUNC形式(¥¥マシン名¥共有名)で指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ セキュリティ設定権

備考 変更中はJLookサービスが停止されます。

例： 標準出力保存先ディレクトリを¥¥JMSS1¥JMSOUT2(JMSS1 というマシンのJMSOUT2という共有ディレクトリ)に変更します。

JChgStd.bat

JChgStd.exe ¥¥JMSS1¥JMSOUT2

注意 このコマンドをWindows Server 2008以降で実行するには、管理者権限が必要です。

⑥JQueue

JQueue.exe はジョブキューの情報を表示/設定します。

構文 JQueue.exe [/s: サーバ名] [情報種別 [キュー設定値 | マシン設定値]]

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

情報種別

情報種別として以下のいずれかを指定します。

省略時は全てのジョブキューの情報を表示します。

ジョブキュー名

ジョブキュー名を指定します。

/m マシン名

マシン名を指定します。

設定値(キュー情報)

設定するジョブキュー状態を以下から指定します。

情報種別に「ジョブキュー名」を指定した場合の設定値です。

省略時は現状のジョブキュー情報を表示します。

open

ジョブキューを"開"状態にします。

close

ジョブキューを"閉"状態にします。

qlmt 多重度数

ジョブキュー多重度を指定します。

<値形式> N

<値範囲>1 ~ 100 1 ~ 200(Enterprise Edition使用時)

qpl 優先度

ジョブキュー優先度を指定します。

<値形式> N <値範囲>1 ~ 16

qrtc 回数

リトライ回数を指定します。

<値形式> N(回) <値範囲>1 ~ 10

qrti 間隔時間

リトライ間隔時間を分単位で指定します。

<値形式> N(分) <値範囲>1 ~ 999999999

設定値(マシン情報)

設定したいマシン情報を以下から指定します。

情報種別に「/m マシン名」を指定した場合の設定値です。

省略時はマシン情報を表示します。

mlmt 多重度

マシン多重度を指定します。

<値形式> N

<値範囲> 0 ~ 100 (0: 多重度指定なし)

0 ~ 200(Enterprise Edition使用時)

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 表示時 JMSS利用権
 設定時 セキュリティ設定権

例： 8:00から17:00の間のみ、Que1というジョブキューの状態を"開"にします。
 12:00から13:00の間は、Que1というジョブキュー多重度を"10"にします。

```
JQueue.bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JQueue.exe Que1 open
JQueue.exe Que1 qlmt 100
JWaitT.exe 12:00
JQueue.exe Que1 qlmt 10
JWaitT.exe 13:00
JQueue.exe Que1 qlmt 100
JWaitT.exe 17:00
JQueue.exe Que1 close
GOTO loop
```

Serverというマシンのマシン多重度を10にします。

```
JQueue.exe /m Server mlmt 10
```


2.5 JMSS ジョブ情報関連コマンド

①JClrLog

JClrLog.exe は JMSS のログ情報を初期化します。また標準出力内容保存ファイルの削除も行えます。

構文 JClrLog.exe [/s]

パラメータ /s

標準出力内容保存先ディレクトリの全ファイルを削除します。
省略時には削除しません。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ セキュリティ設定権

備考 変更中はJLookサービスが停止されます。

例： 毎日6:00にログ情報と標準出力保存先ディレクトリをクリアします。

```
JCtlSrv.bat
:loop
JWaitT.exe 06:00
JClrLog.exe /s
JCtlSrv.bat
GOTO loop
```

注意 このコマンドをWindows Server 2008以降で実行するには、管理者権限が必要です。

②JGetStd

JGetStd.exe は指定されたジョブの標準出力を取得し、ファイルまたは画面に出力します。

構文 JGetStd.exe [/s:サーバ名] /j:ジョブ番号 [/t:"業務名" ["ファイル名"]

パラメータ

- /s: サーバ名**
 - 接続先サーバ名を指定します。
 - 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。
- /j: ジョブ番号**
 - 取得するジョブのジョブ番号を指定します。
 - <値範囲> 1 ~ 2,147,483,647
- /t: "業務名"**
 - 取得するジョブの業務名を指定します。
 - 同一の業務名が複数ある場合、最新のジョブが優先されます。
- "ファイル名"**
 - 出力ファイル名を指定します。
 - 省略時には画面に表示します。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ	参照時	JMSS利用権
	変更時	セキュリティ設定権

例： SERVER1 というJMSSサーバ上のジョブ番号が 777番のジョブの標準出力ファイル内容を画面に表示します。

JGetStd.bat

```
JGetStd.exe /j:777 /s:SERVER1
```

業務名が「日時処理」という名前のジョブの標準出力ファイル内容をSERVER1という名前のサーバのJMSOUTという共有ディレクトリにresult.txt という名前で出力します。

JGetStd.bat

```
JGetStd.exe /t:"日時処理" "¥¥SERVER1¥JMSOUT¥result.txt"
```


2.6 JMSS スケジュール関連コマンド

① JChgEvt

JChgEvt.exe は指定されたイベント起動 No のイベント起動を即実行します。

構文 JChgEvt.exe [/s: サーバ名] #イベント起動No

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

#イベント起動No

イベント起動Noを指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考

1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

イベント起動NoはJDispEvtコマンドで確認してください。

例： バッチファイルの引数に指定されたイベント起動Noのイベント起動をMachine1、Machine2で即実行します。

JChgEvt.bat

JChgEvt.exe /s:Machine1 %1 %2

JChgEvt.exe /s:Machine2 %1 %2

②JChgEvt2

JChgEvt2.exe は指定された業務名に該当するイベント起動を即時実行します。

構文 JchgEvt2.exe [/s: サーバ名] [/a] /t:"業務名"

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。
省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/a

該当するイベント起動が複数存在する場合、全てを即実行します。
省略時に該当するスケジュールが複数存在した場合、エラーとなります。

/t:"業務名"

イベント起動の業務名を指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例: バッチファイルの引数に指定された業務名に該当するイベント起動全てをMachine1,Machine2で即実行します。

JChgEvt2.bat

JChgEvt2.exe /s:Machine1 /a /t:%1

JChgEvt2.exe /s:Machine2 /a /t:%1

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
スケジュールNo/サブNoはJDispSchコマンドで確認してください。

例： バッチファイルの引数に指定された日付、ID、サブNoのスケジュールをマシン名 Machine 1 , Machine2のJMSSサーバで即実行します。

JChgSch.bat

```
JChgSch.exe /s:Machine1 /f /o:%1 %2 %3
```

```
JChgSch.exe /s:Machine2 /f /o:%1 %2 %3
```


セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
指定された日時、業務名に該当するスケジュールが複数存在し、かつ/aオプションを指定していない場合にはエラーとなります。

例： バッチファイルの引数に指定された日付、業務名に該当するスケジュールをマシン名Machine 1， Machine2のJMSSサーバで即実行します。

JChgSch2.bat

```
JChgSch2.exe /s:Machine1 /f /a /o:%1 /t:%2
```

```
JChgSch2.exe /s:Machine2 /f /a /o:%1 /t:%2
```


⑤JDispCal

JDispCal.exe は指定されたカレンダーデータを表示(標準出力に出力)します。

構文 JDispCal.exe [/s:サーバ名] [/d:表示年月] "カレンダー名"

パラメータ /s:サーバ名

 JMSSサーバ名を指定します。

 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

 /d:表示年月

 表示する年月を指定します。

 省略時は今月のデータが表示されます。

 <値形式> YYYY/MM (西暦/月)

 "カレンダー名"

 表示するカレンダー名を指定します。

終了コード 正常終了 0

 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

 また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例: バッチファイルの引数に指定された名前のカレンダーデータをMachine1、Machine2から参照し、表示します。

JDispCal.bat

JDispCal.exe /s:Machine1 %1

JDispCal.exe /s:Machine2 %1

⑥JD i spEvt

JDispEvt.exe は指定されたイベント起動データを表示(標準出力に出力)します。

構文 JDispEvt.exe [/s:サーバ名] [/i:項目[,項目,...]] [/nh]
#イベント起動No

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/i:項目[,項目,...]

表示する項目を以下から指定します。(表示順序は固定です)

省略時は※の項目が表示されます。

id : イベント起動No※:1イベント起動登録毎に付けられる番号

te : トリガイベント※

f1 : 有効フラグ※

t1 : 業務名※

in : ジョブ名

dr : ディレクトリ

ip : パラメータ

jq : ジョブキュー※

| tr | : 期間(開始日/終了日) |

ot : 標準出力監視

pr : 優先順位

of : 標準出力ファイル

om : 標準出力モード

to : 実行時間タイムアウト

et : ジョブ起動方式

ex : 排他業務名

It : 前回受信日時

le : 前回受信イベント

a1 : 上記すべて

/nh

ヘッダ行を表示しない場合指定します。

#イベント起動 No

指定したイベント起動Noのデータをブロック表示します。

終了コード	正常終了	0
	異常終了	「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。
セキュリティ	スケジュール利用権	
備考	1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。 また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。	

例： バッチファイルの引数に指定されたマシンのイベント起動データを表示します。

```
JDispEvt.bat
:loop
IF "%1" == "" EXIT
JDispEvt.exe /s:%1
SHIFT
GOTO loop
```


⑦JDispSch

JDispSch.exe はスケジュールデータを表示(標準出力に出力)します。

構文 JDispSch.exe [/s: サーバ名] [/i: 項目[, 項目,...]] [/nh] 表示種別

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/i: 項目[, 項目...]

表示する項目を以下から指定します。(表示順序は固定です)

省略時は※項目が表示されます。

id : スケジュールNo※: 1スケジュール登録毎に付けられる番号

si : サブNo※(1スケジュールで起動日付毎に付けられる番号)

do : 投入状態(成功/失敗/未投入)※

dt : 日付※

tm : 時間※

tl : 業務名※

jn : ジョブ名

jp : パラメータ

dr : ディレクトリ

jq : ジョブキュー※

tr : 期間(開始日/終了日)

un : ユーザ名

ot : 標準出力監視

pr : 優先順位

mc : マシン名

sh : 振替

fq : 周期

of : 標準出力ファイル

om : 標準出力モード

to : 実行時間タイムアウト

et : ジョブ起動方式

no : ± n 日指定

ex : 排他業務名

cl : カレンダー(カレンダー名/カレンダーフラグ)

nt : 通知条件

yj : 未起動時実行ジョブ(全ての項目)

so : 振替実行オプション

al : 上記すべて

/nh

ヘッダ行を表示しない場合指定します。

表示種別

表示する種別を以下のいずれかを指定します。

省略した場合、指定日（今日）となります。

指定日

指定日付のスケジュールデータを表示します。

<値形式> [YYYY]/MM/DD ([西暦]/月/日)

Master

全てのスケジュールデータを表示します。

#ID

指定IDのデータをブロック表示します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例： 毎日6:00に本日のスケジュールの存在を確認して、スケジュールが存在する場合はファイルのコピーを行います。

JDispSch.bat

```
:loop
JWaitT.exe 06:00
JDispSch.exe
IF ERRORLEVEL 50 GOTO error
IF ERRORLEVEL 21 GOTO nosch
jcmd cmd /c copy a.dat b.dat
GOTO loop
:nosch
ECHO "スケジュールデータはありません"
GOTO loop
:error
ECHO "エラーが発生しました"
GOTO loop
```


⑧JSEvt

JSEvt.exe は指定されたイベント起動 No のイベント起動の有効/無効を設定します。

構文 JSEvt.exe [/s: サーバ名] #イベント起動No スイッチ

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

#イベント起動No

設定するイベント起動のIDを指定します。

スイッチ

設定状態として以下のいずれかを指定します。

on イベント起動を有効にします。

off イベント起動を無効にします。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。

イベントIDはJDispEvtコマンドで確認してください。

例： 08:00から17:00の間だけ、ID1のイベント起動を有効にします。

JSEvt.bat

```
:loop
JWaitT.exe 08:00
JSEvt.exe #1 on
JWaitT.exe 17:00
JSEvt.exe #1 off
GOTO loop
```


⑨JSwEvt2

JSwEvt2.exe は指定された業務名に該当するイベント起動の有効/無効を設定します。

構文 JSwEvt2.exe [/s:サーバ名] [/a] /t:"業務名" スイッチ

パラメータ /s:サーバ名

 JMSSサーバ名を指定します。
 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

 /a

 該当するイベント起動全てに設定します。
 省略時に該当するイベントが複数存在した場合、エラーとなります。

 /t:"業務名"

 設定するイベント起動の業務名を指定します。

スイッチ

 設定状態として以下のいずれかを指定します。

 on イベント起動を有効にします。

 off イベント起動を無効にします。

終了コード 正常終了 0

 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例： 08:00から17:00の間だけ、業務名が"JOB"のイベント起動全てを有効にします。

```
JswEvt2.bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JSwEvt2.exe /a /t:"JOB" on
JWaitT.exe 17:00
JSwEvt2.exe /a /t:"JOB" off
GOTO loop
```


セキュリティ 全ユーザ

備考 ジョブ起動方式を置換する場合、次のいずれかの値を指定します。
0=指定しない（JMSS/JEnvの「ジョブ起動方式」の設定にて起動）
1=JLookサービスのアカウントで起動
2= JMSS/JD（JDAdmin）を起動したユーザで起動

例： バッチファイルの引数に指定されたメニューファイルを各項目毎に一括置換します。

JChgJmn.bat

JChgJmn.exe /i:jn ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS2 %1

JChgJmn.exe /i:dr ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS3 %1

JChgJmn.exe /i:qn JMSS1 JMSS4 %1

②JJmnEnv

JJmnEnv.exe はユーザ毎のメニュー環境を表示/設定します。

構文 JJmnEnv.exe [/s:サーバ名] [/u:ユーザ名] ["メニューファイル名"]

パラメータ /s:サーバ名

 JMSSサーバ名を指定します。

 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

 /u:ユーザ名

 表示/設定するユーザ名を指定します。

 省略時は現在のユーザ名になります。

 "メニューファイル名"

 初期メニューファイルとするメニューファイル名を指定します。

 省略時は現在設定されているメニューファイル名を表示します。

終了コード 正常終了 0

 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ	現在のユーザの環境情報参照時	JMSS利用権
	現在のユーザの環境情報設定時	メニュー作成/更新権
	他のユーザの環境情報参照時	セキュリティ設定権

例： バッチファイルの引数に指定された全ユーザのメニュー環境を変更します。

```
JJmnEnv.bat
:loop
IF "%1" == "" EXIT
JJmnEnv.exe /u:%1 ¥¥JMSS1¥¥JOB¥¥JOBMENU.JMN
SHIFT
GOTO loop
```


③JConvSM

JConvSM.exe は S モデルメニューファイルを JMSS のメニューファイルに変換します。

構文 JConvSM.exe 変換元ファイル名 [変換先ディレクトリ名]
[/D:実行ディレクトリ] [/N] [/UY] [/UN] [/E] [/A]

パラメータ	変換元ファイル名
-------	----------

変換したいSモデルメニューファイルをフルパスで指定します(最大256バイトです)。

★拡張子の指定はありません。

ファイル名にはワイルドカード (*.*, ??A?*) の指定が可能です。

変換先ディレクトリ名

変換後の業務運用メニューファイルを出力するディレクトリをフルパスで指定します(最大256バイトです)。

/D: 実行ディレクトリ

指定した実行ディレクトリを、ジョブ名のパス及び実行ディレクトリに付加します。

/N

Sモデルメニューのユニット以外（コマンド画面に戻る、最初のメニューに戻る、1つ前のメニューへ戻る）の項目見出しを出力しません。未指定時は出力されます。

/UY

変換先ファイルが既に存在する場合、無条件に上書きします（BAK ファイルを作成します）。

/UN

変換先ファイルが既に存在する場合、変換しません。

/E

変換エラー時の確認メッセージを表示しません。

/A

すべてのメッセージ出力をしません（変換先ファイルが既に存在する場合、無条件に上書きします）。

終了コード 正常終了 ★

異常終了 ★「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 ジョブ起動方式を置換する場合、次のいずれかの値を指定します。
 0=指定しない（JMSS/JEnvの「ジョブ起動方式」の設定にて起動）
 1=JLookサービスのアカウントで起動
 2= JMSS/JD（JDAdmin）を起動したユーザで起動

例： バッチファイルの引数に指定されたジョブネットファイルを各項目毎に一括置換
 します。

JChgJnt.bat

JChgJnt.exe /i:jn ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS2 %1

JChgJnt.exe /i:dr ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS3 %1

JChgJnt.exe /i:qn JMSS1 JMSS4 %1

②JConvCJ

JConvCJ.exe は JMSS/JBuild から CSV 形式で出力されたファイル(*.CSV)や、表計算ソフトなどで作成した CSV 形式のファイルを、ジョブネットワークファイルに変換します。

構文 JConvCJ.exe 変換元ファイル名 [変換先ディレクトリ名]
 [/U] [/I] [/E] [/A] [/O]

パラメータ 変換元ファイル名

変換したいCSV形式ファイルをフルパスで指定します(最大256バイトです)。

拡張子は (. CSV) です。

ファイル名にはワイルドカード (*.*, ??A?.*) の指定が可能です。

変換先ディレクトリ名

変換後のジョブネットワークファイルを出力するディレクトリをフルパスで指定します(最大256バイトです)。

/U

変換先ファイルが既に存在する場合、無条件に上書きします (BAK ファイルを作成します)。

/Oと同時に指定された場合、本オプションは無効となります。

/I

ファイル不正／項目不正時、確認メッセージを表示しません。既定値がセットされます。

/E

変換対象外ファイルのメッセージ出力をしません。

/A

すべてのメッセージ出力をしません。

/O

変換先ファイルが既に存在する場合、BAKファイルを作成せずに上書きします。

終了コード 正常終了 ★

異常終了 ★「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にJChgSecコマンドでセキュリティを設定することはできません。
また、すでにJEnvが編集モードで起動されている場合も、JChgSecコマンドでセキュリティを設定することはできません。

例： バッチファイルの引数に指定された全ユーザに全権限を与えます。

JChgSec.bat

```
:loop  
IF"%1" == "" EXIT  
JChgSec.exe %1 ctrl other menu sch throw use  
SHIFT  
GOTO loop
```


第3章 エラーコード一覧

No.	分類	コード(10進)	コード(16進)	概要
1	Success	0	00000000	正常
2	Warning	20	00000014	入力するデータがありません
3		21	00000015	出力するデータがありません
4	Error	50	00000032	パラメータの指定に誤りがあります
5		51	00000033	JMSS サーバに接続できません
6		52	00000034	JMSS サーバ名が取得できません
7		53	00000035	JMSS がインストールされていません
8		54	00000036	JMSS サーバではありません
9		55	00000037	指定のジョブが存在しません
10		56	00000038	指定されたジョブキューが存在しません
11		57	00000039	指定のマシンが存在しません
12		58	0000003a	指定のマシンに接続できません
13		59	0000003b	指定されたスケジュールがありません
14		60	0000003c	指定された名前のカレンダーがありません
15		61	0000003d	指定されたユーザ/グループは存在しません
16		62	0000003e	指定のディレクトリ/ファイルがありません
17		63	0000003f	空き容量がありません
18		64	00000040	指定されたファイルの内容が不正です
19		65	00000041	セキュリティ情報の取得に失敗しました
20		66	00000042	必要な JMSS セキュリティがありません
21		67	00000043	他ユーザ監視権が無いにもかかわらず他ユーザのジョブを指定しました
22		68	00000044	WS-EML 環境で投入されたジョブであるので制御不可能です
23		69	00000045	Shutdown 権限がありません
24		70	00000046	処理が完了しませんでした
25		71	00000047	タイムアウトしました
26		72	00000048	他のユーザが使用中のため使用できません
27		73	00000049	登録数の限界値に達しました
28		74	0000004a	過去に一時変更はできません
29		75	0000004b	実行済のため一時変更できません
30		76	0000004c	休止日に一時変更しました
31		77	0000004d	ESMPRO/AC カレンダーの電源 OFF 範囲への一時変更です
32		78	0000004e	ジョブキューにジョブが登録されていません
33		79	0000004f	環境を変更できません

ESMPRO®/JMSS® Ver7.2
ユーティリティ
ユーザズマニュアル

2012年 9月 初版
2013年 3月 2版
2017年 5月 3版
2019年 3月 4版

日 本 電 気 株 式 会 社
東京都港区芝五丁目7番地1号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

開発 NECソリューションイノベータ株式会社
東京都江東区新木場1-18-7
TEL (03) 5534-2222 (大代表)

(C) NEC Corporation 1998-2019

日本電気株式会社の許可なく複製・改編などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。